

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 1 月 6 日 (2011.1.6)

【公表番号】特表 2010-510280 (P2010-510280A)

【公表日】平成 22 年 4 月 2 日 (2010.4.2)

【年通号数】公開・登録公報 2010-013

【出願番号】特願 2009-537603 (P2009-537603)

【国際特許分類】

C 07 D 401/14 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 D 401/14

C 07 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 11 月 12 日 (2010.11.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

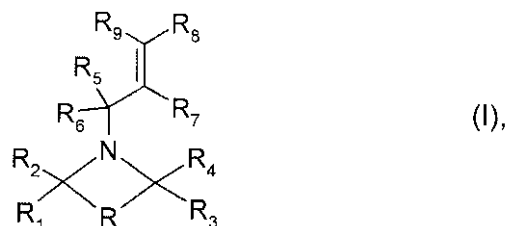
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 I

【化 1】



(式中、

結合基 R は、それが直接結合する炭素原子及び窒素原子と一緒にあって、置換された 5 - 、 6 - 、又は 7 員の環式環構造を形成し、

R₁、R₂、R₃及び R₄は、夫々互いに独立して、炭素原子数 1 乃至 8 のアルキル基又は炭素原子数 1 乃至 5 のヒドロキシアルキル基を表し、

又は R₁と R₂はそれらが結合する炭素原子と一緒にあって炭素原子数 5 乃至 12 のシクロアルキル基を表し、

又は R₃と R₄はそれらが結合する炭素原子と一緒にあって炭素原子数 5 乃至 12 のシクロアルキル基を表し、

R₅、R₆、R₇、R₈及び R₉は、夫々互いに独立して、水素原子、炭素原子数 1 乃至 8 のアルキル基、炭素原子数 2 乃至 8 のアルケニル基、非置換の又は炭素原子数 1 乃至 4 のアルキル基、炭素原子数 1 乃至 4 のアルコキシ基又はハロゲン原子で置換された炭素原子数 5 乃至 12 のアリール基；炭素原子数 1 乃至 4 のハロアルキル基、シアノ基、ニトロ基、ハロゲン原子又は - C O O R₁₀を表し；

そして R₇と R₈は一緒にあって化学結合をも形成し得、

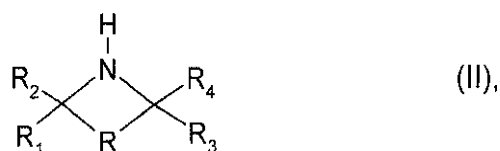
R₁₀は炭素原子数 1 乃至 12 のアルキル基、炭素原子数 5 乃至 12 のシクロアルキル基、炭素原子数 7 乃至 9 のフェニルアルキル基又はフェニル基を表す。)

で表される化合物の製造方法であって、

該方法は、

式 I I

【化 2】



(式中、R、R₁、R₂、R₃及びR₄は先に定義されたものを表す。)で表される化合物を、触媒の存在下で、式 I I I

【化 3】

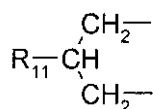


(式中、R₅、R₆、R₇、R₈及びR₉は先に定義されたものを表す。)で表される化合物と反応させることを含む、方法。

【請求項 2】

式中、R が

【化 5】



を表し、

R₁、R₂、R₃及びR₄がメチル基を表し、

R₅、R₆、R₇、R₈及びR₉が水素原子を表し、

R₁₁がトリアジン環に結合する窒素原子を表す、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

式 I で表される化合物が、モノマーの、オリゴマーの、ポリマーの立体障害性アミン光安定剤の一部である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

式 I I I で表される化合物が、式 I I で表される立体障害性第二アミンの各ユニットに対して等モル乃至 100 倍超過で使用される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

触媒が金属触媒である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

金属触媒が、パラジウム、ロジウム、ルテニウム、オスミウム、銅、ニッケル、マンガン、鉄及びコバルト触媒からなる群から選択される、請求項 8 記載の方法。

【請求項 7】

触媒がパラジウム(テトラキストリフェニルホスフィン)である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 8】

触媒が、式 I I で表される立体障害性第二アミンの各ユニットに対して 0.01 乃至 30 モル%の量で使用される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

さらに溶媒が存在している、請求項 1 記載の方法。

【請求項 10】

さらに塩基が存在している、請求項 1 記載の方法。

【請求項 11】

さらに二酸化炭素又は別の不活性ガス又はそれらの混合物が存在している、請求項 1 記載の方法。